

胃がん検診の注意事項

1. 食 事 : 検査前日の夜10時以降から検査終了まであめ、ガム、お茶、コーヒーも含めて食事（朝食含む）はしないでください。

- ・水は就寝まで飲んででも差し支えありません。飲酒は避けてください。
- ・検査当日に水（検査開始2時間前までに200mL以内なら検査可）以外を飲んだ方は正しい検査ができませんので受診できません。
- ・検査終了まではタバコも控えてください。



2. 薬 : 検査当日の内服について

✕ 糖尿病の方 …………… 受診前は、薬の服用やインスリン注射はしないでください。（低血糖になる危険があります）

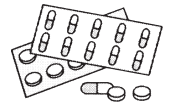
✕ SGLT2阻害薬を服薬している方 …………… 糖尿病、腎臓病、心臓病でこの薬を服薬している方は、受診前は服薬を中止し、健診終了後、食事を終えた後に服薬してください。SGLT2阻害薬が処方されているかご不明な方は、処方薬局もしくは受診されている医療機関にお尋ねください。

○ 心臓病・高血圧の薬、抗てんかん薬、向精神薬を服薬されている方 …………… 薬は検査開始2時間前までに、200mL以内の水で必ず飲んできてください。

※それ以外の薬は検査後にお飲みください。

※当日、血圧の薬を飲み忘れた方は、受診をお断りする場合があります。

※薬の副作用について不安のある方は、かかりつけ医などにお問い合わせください。



3. 服 装 : 検査の受けやすい服装でおいでください。

- ・ボタン、ファスナー、金具のない無地のもの、ウエストがゴムのあるものなどを着用しておいでください。

4. バリウム検査についての注意

- ・ショック、消化管穿孔、腸閉塞がまれに起こることがあります。

5. 下記の方は検査を受けられません。また、当日の体調や問診内容を考慮し、お断りする場合があります。

- ① 現在妊娠中の方、または妊娠の可能性のある方。
- ② バリウム製剤に対し、過敏症（じんましん、息苦しさ、手足が冷たくなるなど）の既往歴のある方。
- ③ 過去2ヶ月以内に内視鏡による大腸ポリープを切除された方。
- ④ 過去1年以内に開腹、腹腔鏡手術、内視鏡手術、開胸（乳がん含む）、胸腔鏡手術、心臓カテーテル・頭部の手術等や整形外科の手術をされた方、1年経過後も通院中の方で主治医の許可がない方（整形外科を除く）。
- ⑤ 1年以内に狭心症、心筋梗塞、脳血管疾患（脳梗塞等）を発症したことのある方。1年経過後も通院中の方で主治医の許可がない方。
- ⑥ 1年以内にてんかん発作のあった方。
- ⑦ 腸閉塞、腸捻転の既往がある方、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の治療中で主治医の許可がない方。1年以内に憩室炎と診断され治療を受けたことがある方。便秘症で検査前72時間（3日）以上排便がない方。
- ⑧ 腎臓病・心臓病などで水分制限を受けている方。人工透析を受けている方。
- ⑨ 自力で立位を保持することや撮影台の手すりを自分でつかむことが困難な方。
- ⑩ ペースメーカー、植込み型除細動器使用の方で主治医の確認がない方。（X線装置による誤作動の可能性あります）
- ⑪ インスリンポンプ及び持続グルコース測定器等を装着したままでの検診（X線検査）はできません。詳しくは、別紙の注意事項をご確認ください。
- ⑫ 撮影機器の安全構造上、体重120kg以上の方。
- ⑬ 呼吸不全のある方（片側の肺切除術後、COPDなどで常時酸素吸入など）。

※普段から食べ物や飲み物が飲み込みにくい、むせやすい方、以前にバリウムの誤嚥があった方は今回の検診は、適当ではありません。医療機関を受診して、胃内視鏡をお受けになることをお勧めいたします。

※上記の方でも、個人の状況により検査を受けられる場合がありますので、詳しくは健康増進課にお問い合わせください。

胃X線検査を受診される皆様へ

胃X線検査は硫酸バリウムを飲んで頂いて写真を撮影する検査です。胃のX線検査受診後に、ごくまれではありますが重い過敏症（アレルギー症状）や消化管穿孔（消化管に穴があく）、腸閉塞（消化管に硫酸バリウムがつまる）や、それに伴う腹膜炎を起こすことがあります。以前にこのような症状を経験された方やご心配な方は受診を控えてください。

また、検査後もこのような重い副作用の症状がでたときには、すぐに最寄りの医療機関を受診してください。

《注意していただくアレルギー症状》

じんましん 気分が悪い 顔色が青白くなる 手足が冷たくなる
のどがつまる 息苦しい 息がしにくい など